

平成30年度「品川区学力定着度調査」の結果から 明らかになった課題と学力向上に向けた取組

「品川区学力定着度調査」の趣旨

- (1)学習指導要領に示された教科の目標や内容の実現状況を把握し、教育課程や指導方法等に関わる区の課題を明確にすることで、その充実・改善を図るとともに、区の教育施策に生かす。
- (2)各学校は、教育課程や指導方法に関わる自校の課題・解決策を明確にするとともに、調査結果を経年で把握することで、児童・生徒一人一人の学力の向上を図る。
- (3)区民に対し、区立学校における児童・生徒の学力等の状況について、広く理解を求める。

1 調査日 平成30年4月19日（木）

2 調査対象 品川区立学校 第2～9学年の全児童・生徒

3 調査内容

(1)教科に関する調査

○調査の趣旨に基づき、学習指導要領に定める内容について、基礎・基本および活用の力を測る問題で構成

<第2・3学年> 国語、算数

<第4～6学年> 国語、社会、算数、理科

<第7～9学年> 国語、社会、数学、理科、英語

品川区立荏原第五中学校

7年

(1) 定着状況の概要
 全国平均とほぼ同程度で、おおむね良好な状況である。特に、記述に関しては全国の正答率を全ての項目で上回るなど良好な状況である。一方で、漢字の読み書きや聞き取りで一部課題が見られた。

(2) 具体的な課題
 聞き取りでは聞き手に理解してもらうための話し方の工夫を聞き取ることに課題が見られた。

(3) 課題の原因として考えられること
 説明文においては、展開や内容をよく理解しており、意見を聞き取ることはできるが、この間いでは、表現を意識して聞き取っていないためと考えられる。

(4) 課題解決のための方策
 「話す・聞く」の単元で行う聞き取りテストの際に、設問に対する解説だけでなく表現に対する解説も行い、表現に対する話し手の工夫を意識できるように指導する。

(5) 次年度の数値目標
 来年度は、漢字と、「話すこと・聞くこと」においても、全国平均を上回る。

出題のねらい	目標値	校内正答率	全国正答率
「かいへい」の読み取り	60.0	53.2	60.8
「温暖」の書き取り	70.0	51.9	72.9
聞き手に理解を促す話し方の工夫の聞き取り	55.0	48.1	51.0

8年

(1) 定着状況の概要
 全国平均と同程度であり、おおむね良好な状況である。昨年度の目標「説明的文章、文学的文章について全国平均を全ての項目で上回る」を達成することはできたが、特に書く項目において課題が見られた。

(2) 具体的な課題
 「書く」領域に関しては、全ての項目で全国平均を下回っており、改善する必要がある。

(3) 課題の原因として考えられること
 昨年度目標に向けて、読み取りに重点をおいて指導したことにより、書くことに対しておろそかになって生徒が出てしまったことが考えられる。

(4) 課題解決のための方策
 読み取りとのバランスを考えながら、書く時間を意識的に割くようにする。また、グラフから読み取ったことに対する記述にも課題が見られたので、グラフを意識的に読み取ること、またそこから分かることを書くなどの学習機会を設ける。

(5) 次年度の数値目標
 成果の見られた漢字を引き続き学習し、「書く」項目で全国平均を上回る。

出題のねらい	目標値	校内正答率	全国正答率
指定された字数で書く	50.0	38.8	43.5
3段落構成で文章を書く	50.0	32.2	40.7
読み取った内容を明確に書く	50.0	37.6	43.1
自分の考えを明確に書く	50.0	43.0	48.8
	45.0	33.5	37.6

9年

(1) 定着状況の概要
 全国平均とほぼ同程度でおおむね良好な状況である。文法（用言）・漢字の読みなど知識を要する問題については全国平均を上回っているが、昨年度課題であった文章を書く問題が全国平均に達していない。

(2) 具体的な課題
 「書くこと」「漢字の読み」に課題が見られた。

(3) 課題の原因として考えられること
 文章を書く機会が少ないことと表現することに対する苦手意識が考えられる。

(4) 課題解決のための方策
 自分の意見を堂々と表現できる授業の雰囲気作りをする。また、漠然と「感想」などを書かせるのではなく、単語を使って短文を作るなどして書くことに対する苦手意識をなくす。あわせて、文章は習った漢字を使って書くよう促す。生徒が書いた文章を集める機会を増やし漢字の誤字を指摘し正しい漢字を学べるようにする。

出題のねらい	目標値	校内正答率	全国正答率
漢字を書く	60.0	51.0	60.0
3段落構成で文章を書くことができる	55.0	48.5	55.0

<p>7年</p>	<p>(1) 定着状況の概要 全国正答率をわずかに下回ったが、区の平均正答率と同程度である。短答式の問題に課題がある。</p> <p>(2) 具体的な課題 鎌倉・室町、明治～昭和の項目で全国を下回っている。(歴史) 裁判所の働き、国民の義務の理解に課題がある。(公民)</p> <p>(3) 課題の原因として考えられること 繰り返しの演習が不足しているのではないかと考えられる。</p> <p>(4) 課題解決のための方策 歴史の授業では、重要語句を複数回書かせた上で、さらに演習問題に取り組みさせていく。全国平均を上回る地理的分野でも、基礎の定着を図っていく。</p> <p>(5) 次年度の数値目標 全問題、全国正答率を超えるようにする。</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>出題のねらい</th> <th>目標値</th> <th>校内正答率</th> <th>全国正答率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>室町文化を代表する書院造について理解している。</td> <td>50.0</td> <td>19.1</td> <td>52.1</td> </tr> <tr> <td>明治政府による富国強兵について理解している。</td> <td>40.0</td> <td>19.7</td> <td>27.9</td> </tr> <tr> <td>裁判所の働きについて理解している。</td> <td>70.0</td> <td>62.5</td> <td>66.2</td> </tr> <tr> <td>国民の義務について理解している。</td> <td>50.0</td> <td>37.5</td> <td>49.4</td> </tr> </tbody> </table>	出題のねらい	目標値	校内正答率	全国正答率	室町文化を代表する書院造について理解している。	50.0	19.1	52.1	明治政府による富国強兵について理解している。	40.0	19.7	27.9	裁判所の働きについて理解している。	70.0	62.5	66.2	国民の義務について理解している。	50.0	37.5	49.4				
出題のねらい	目標値	校内正答率	全国正答率																							
室町文化を代表する書院造について理解している。	50.0	19.1	52.1																							
明治政府による富国強兵について理解している。	40.0	19.7	27.9																							
裁判所の働きについて理解している。	70.0	62.5	66.2																							
国民の義務について理解している。	50.0	37.5	49.4																							
<p>8年</p>	<p>(1) 定着状況の概要 前年度より標準スコアは0.2ポイント微増した。昨年度課題であった「資料活用の技能」は上昇傾向にあり、思考・判断も全国平均を上回っている。一方で、基礎に関しては5ポイント以上、下回る結果となり、特に歴史的分野に課題がみられる。</p> <p>(2) 具体的な課題 歴史的分野における、古代文明、大和政権、院政、下剋上に関する項目で大きく全国正答率を下回っている。</p> <p>(3) 課題の原因として考えられること 文明や政治的背景等が理解できているか指導者の確認が不足していたと考えられる。</p> <p>(4) 課題解決のための方策 特に歴史的分野における政治的な背景や仕組みは丁寧に指導し、確認テスト等を行い、定着を確認していく。引き続き活用部分の成長のために探究的な学習は行っていく。</p> <p>(5) 次年度の数値目標 来年度は基礎において全国正答率を上回るようにする。</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>出題のねらい</th> <th>目標値</th> <th>校内正答率</th> <th>全国正答率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>古代文明の特色を把握することができる。</td> <td>50.0</td> <td>42.6</td> <td>51.1</td> </tr> <tr> <td>大和政権の発展について理解している。</td> <td>70.0</td> <td>50.4</td> <td>67.1</td> </tr> <tr> <td>院政について理解している。</td> <td>45.0</td> <td>17.2</td> <td>43.4</td> </tr> <tr> <td>下剋上の風潮について理解している。</td> <td>70.0</td> <td>55.7</td> <td>71.6</td> </tr> </tbody> </table>	出題のねらい	目標値	校内正答率	全国正答率	古代文明の特色を把握することができる。	50.0	42.6	51.1	大和政権の発展について理解している。	70.0	50.4	67.1	院政について理解している。	45.0	17.2	43.4	下剋上の風潮について理解している。	70.0	55.7	71.6				
出題のねらい	目標値	校内正答率	全国正答率																							
古代文明の特色を把握することができる。	50.0	42.6	51.1																							
大和政権の発展について理解している。	70.0	50.4	67.1																							
院政について理解している。	45.0	17.2	43.4																							
下剋上の風潮について理解している。	70.0	55.7	71.6																							
<p>9年</p>	<p>(1) 定着状況の概要 昨年度より校内正答率が下がり、また全国正答率を超えることもできなかった。</p> <p>(2) 具体的な課題 日本の地域構成、世界と比べた日本の地域的特色、近代の日本と世界が特に低い。</p> <p>(3) 課題の原因として考えられること 定期テストとは異なる実力テストにおいて力を発揮するための基礎事項の定着に、十分な時間と問題量を取れていないため。</p> <p>(4) 課題解決のための方策 北方領土やフォッサマグナの位置、雨温図では、地図やグラフ、復習プリント等を活用しながら、基礎的事項の確認をしながら授業を行う。また、鉄砲伝来や地租改正では、年表や復習プリント等を活用しながら定着を図り、最終的に入試問題がきちんと解けるようにさせる。</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>出題のねらい</th> <th>目標値</th> <th>校内正答率</th> <th>全国正答率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>日本固有の領土である北方領土を理解している。</td> <td>70.0</td> <td>31.8</td> <td>68.9</td> </tr> <tr> <td>フォッサマグナ位置の一を指摘することができる。</td> <td>55.0</td> <td>36.4</td> <td>54.3</td> </tr> <tr> <td>日本各地の気候の特色について、雨温図をもとに考察することができる。</td> <td>55.0</td> <td>39.4</td> <td>55.9</td> </tr> <tr> <td>大航海時代や鉄砲伝来に関する史実を理解している。</td> <td>55.0</td> <td>22.2</td> <td>55.5</td> </tr> <tr> <td>明治政府による地租改正について判断することができる。</td> <td>40.0</td> <td>19.2</td> <td>39.1</td> </tr> </tbody> </table>	出題のねらい	目標値	校内正答率	全国正答率	日本固有の領土である北方領土を理解している。	70.0	31.8	68.9	フォッサマグナ位置の一を指摘することができる。	55.0	36.4	54.3	日本各地の気候の特色について、雨温図をもとに考察することができる。	55.0	39.4	55.9	大航海時代や鉄砲伝来に関する史実を理解している。	55.0	22.2	55.5	明治政府による地租改正について判断することができる。	40.0	19.2	39.1
出題のねらい	目標値	校内正答率	全国正答率																							
日本固有の領土である北方領土を理解している。	70.0	31.8	68.9																							
フォッサマグナ位置の一を指摘することができる。	55.0	36.4	54.3																							
日本各地の気候の特色について、雨温図をもとに考察することができる。	55.0	39.4	55.9																							
大航海時代や鉄砲伝来に関する史実を理解している。	55.0	22.2	55.5																							
明治政府による地租改正について判断することができる。	40.0	19.2	39.1																							

数学

7年

(1) 定着状況の概要

全国正答率とほぼ同程度で、良好な状態である。題意を読み取り、式にしていことが苦手である。

(2) 具体的な課題

割合や関数に関する問題の正答率が低い。

(3) 課題の原因として考えられること

「もとなる量」と「比べられる量」の関係がつかめない生徒が多いからと考えられる。

(4) 課題解決のための方策

割合は中学校では取り扱わないが、授業では、式を作る際に、もとなる量や比べられる量を意識させ、たくさんの練習を繰り返し行っていく。比例と反比例では、式、グラフ、表の3つの関係を意識させて定着させる。

(5) 次年度の数値目標

関数が苦手なので、次年度は、関数の項目全てを全国正答率を上回るようにする。

出題のねらい	目標値	校内正答率	全国正答率
1 m ² あたりの人数を求める式	40.0	30.3	35.1
百分率についての理解	65.0	51.3	68.0
比例の関係を、xとyを使う	85.0	78.9	87.2
2つの柱状グラフの比較	60.0	53.9	59.9
2つの折れ線グラフを比較	65.0	57.9	63.9

8年

(1) 定着状況の概要

昨年度の目標であった全国平均を上回ることは、わずかながら超えることができた。数と式・図形の領域の定着はとても良いものであった。

(2) 具体的な課題

比例と反比例、資料の活用に関して、定着が低い項目がある。

(3) 課題の原因として考えられること

比例と反比例では、式、グラフ、表の3つの関係が定着していない。資料の活用では、言葉や意味を理解していないと考えられる。

(4) 課題解決のための方策

比例・反比例の既習事項をしっかりと復習させてから、1次関数の授業を行うようにする。資料の活用では、学年末に復習という形で行い、基本的なことを確実に理解させる。

(5) 次年度の数値目標

全問題、全国正答率を超えるようにする。

出題のねらい	目標値	校内正答率	全国正答率
反比例であるといえる理由	55.0	49.2	54.5
反比例の式を求めること	55.0	47.5	54.0
比例の式から、グラフを書く	55.0	44.3	54.3
中央値についての理解	60.0	54.1	58.5
有効数字の意味、近似値の表し方	50.0	41.0	50.4

9年

(1) 定着状況の概要

昨年度より校内正答率は若干上がったが、全国正答率を超えることはできなかった。

(2) 具体的な課題

関数と図形の定着が特に低い。

(3) 課題の原因として考えられること

数学に関して苦手意識をもっている生徒が多いため、基本となる事項をしっかりと復習するまでの時間が取りきれていない。

(4) 課題解決のための方策

2乗に比例する関数のところで、比例や1次関数での基本的な事項の確認をしっかりと復習しながら授業を行う。また、相似や三平方の定理の授業では、既習事項の確認を行い、復習をしながら授業を進めていき、最後は、証明を自分の力で解けるようにさせる。

出題のねらい	目標値	校内正答率	全国正答率
xの増加量からyの増加量	40.0	22.0	39.9
x軸に平行なグラフの式	40.0	29.0	38.7
2元1次方程式の解を座標とする点の全体が直線になること	40.0	27.0	37.0
多角形の内角の大きさを求める式	70.0	64.0	73.5
仮定と結論についての理解	80.0	66.0	75.3
証明の意義についての理解	60.0	54.0	58.4

理科

<p>7年</p>	<p>(1) 定着状況の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国正答率と比べ下回っている。 <p>(2) 具体的な課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実験等の結果が、知識として定着していないことが考えられる。 <p>(3) 課題の原因として考えられること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活に基づく知識の不足。 ・身近な体験と理科の学習との関連に実感が無い。 <p>(4) 課題解決のための方策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スモールステップを踏んで、段階的な課題を設定し、小テスト等で確認をしながら定着を図る。 ・身近な具体的例を取り上げながら、興味・関心を高めさせ、学習意欲の向上を図る。 <p>(5) 次年度の数値目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知識の観点で今年度より4～5ポイントの上昇を目標とする。 	<table border="1"> <thead> <tr> <th>出題のねらい</th> <th>目標値</th> <th>校内正答率</th> <th>全国正答率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>火が燃えたあとの集気びんにろうそくを入れたときのようすを考えることができる。</td> <td>50.0</td> <td>17.1</td> <td>30.8</td> </tr> <tr> <td>植物を入れたふくろの内側が白くくもる理由を理解している。</td> <td>65.0</td> <td>44.7</td> <td>67.3</td> </tr> <tr> <td>食塩水をリトマス紙につけたときの色の変化を理解している。</td> <td>60.0</td> <td>42.1</td> <td>57.9</td> </tr> <tr> <td>月の表面にある円形のくぼみを、「クレーター」ということを理解している。</td> <td>80.0</td> <td>65.8</td> <td>80.3</td> </tr> </tbody> </table>	出題のねらい	目標値	校内正答率	全国正答率	火が燃えたあとの集気びんにろうそくを入れたときのようすを考えることができる。	50.0	17.1	30.8	植物を入れたふくろの内側が白くくもる理由を理解している。	65.0	44.7	67.3	食塩水をリトマス紙につけたときの色の変化を理解している。	60.0	42.1	57.9	月の表面にある円形のくぼみを、「クレーター」ということを理解している。	80.0	65.8	80.3				
出題のねらい	目標値	校内正答率	全国正答率																							
火が燃えたあとの集気びんにろうそくを入れたときのようすを考えることができる。	50.0	17.1	30.8																							
植物を入れたふくろの内側が白くくもる理由を理解している。	65.0	44.7	67.3																							
食塩水をリトマス紙につけたときの色の変化を理解している。	60.0	42.1	57.9																							
月の表面にある円形のくぼみを、「クレーター」ということを理解している。	80.0	65.8	80.3																							
<p>8年</p>	<p>(1) 定着状況の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国正答率と比べ下回っている。 <p>(2) 具体的な課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知識の定着が不十分である。 <p>(3) 課題の原因として考えられること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習内容を振り返る習慣がない。 ・体験的な学習が不足している。 <p>(4) 課題解決のための方策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・7年生の学習内容の復習を兼ねて、スモールステップを踏み、段階的な課題設定をしながら定着を図る。 ・知識の定着のために、小テストを繰り返し実施する。 ・教師の範示実験を減らし、生徒の実験の時間を確保する。 <p>(5) 次年度の数値目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知識の観点で今年度より5ポイント程度、思考の観点で3ポイント程度の上昇を目標とする。 	<table border="1"> <thead> <tr> <th>出題のねらい</th> <th>目標値</th> <th>校内正答率</th> <th>全国正答率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>光合成後にヨウ素液で染まる部分を理解している。</td> <td>70.0</td> <td>51.6</td> <td>70.0</td> </tr> <tr> <td>水素の性質を理解している。</td> <td>60.0</td> <td>47.5</td> <td>63.3</td> </tr> <tr> <td>おもりがばねを引く力を作図できる。</td> <td>40.0</td> <td>4.1</td> <td>17.0</td> </tr> <tr> <td>2つのちがうばねを引いたとき同じ長さになる力の大きさについて考えることができる。</td> <td>30.0</td> <td>5.7</td> <td>11.4</td> </tr> </tbody> </table>	出題のねらい	目標値	校内正答率	全国正答率	光合成後にヨウ素液で染まる部分を理解している。	70.0	51.6	70.0	水素の性質を理解している。	60.0	47.5	63.3	おもりがばねを引く力を作図できる。	40.0	4.1	17.0	2つのちがうばねを引いたとき同じ長さになる力の大きさについて考えることができる。	30.0	5.7	11.4				
出題のねらい	目標値	校内正答率	全国正答率																							
光合成後にヨウ素液で染まる部分を理解している。	70.0	51.6	70.0																							
水素の性質を理解している。	60.0	47.5	63.3																							
おもりがばねを引く力を作図できる。	40.0	4.1	17.0																							
2つのちがうばねを引いたとき同じ長さになる力の大きさについて考えることができる。	30.0	5.7	11.4																							
<p>9年</p>	<p>(1) 定着状況の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国正答率と比べ下回っている。 <p>(2) 具体的な課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・思考的観点の問題に解答するための知識の活用ができていない。 ・習得した知識が定着することなく忘れてしまう。 <p>(3) 課題の原因として考えられること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知識の定着に必要な繰り返しの学習が不足している。 ・思考的な問題に解答するのに必要な知識があいまいになっていることで、知識を活用する問題に対応できていない。 <p>(4) 課題解決のための方策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夏季休業中の宿題として、7年生の内容からすべて教科書を使って総復習できるように工夫をした課題を与える。 ・夏季休業明けに課題の確認テストを実施する。また、小テストを週2回程度実施していき、身に付けた知識の活用力を高めさせていく。2学期に実施する3回の実力テスト(9・10・11月)で学年の平均を全国平均値まで引き上げる。 	<table border="1"> <thead> <tr> <th>出題のねらい</th> <th>目標値</th> <th>校内正答率</th> <th>全国正答率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>誤った化学反応式を書き直すことができる。</td> <td>50.0</td> <td>4.0</td> <td>44.4</td> </tr> <tr> <td>メダカの水槽の水をかえる必要がある理由を考えることができる。</td> <td>65.0</td> <td>28.7</td> <td>60.9</td> </tr> <tr> <td>水の電気分解で発生した水素と酸素が、単体で分子であることを理解できている。</td> <td>50.0</td> <td>11.9</td> <td>39.7</td> </tr> <tr> <td>結露が起こるしくみについて理解している。</td> <td>55.0</td> <td>23.8</td> <td>51.5</td> </tr> <tr> <td>メダカのえらのつくりと似ているヒトの器官を考えることができる。</td> <td>70.0</td> <td>45.5</td> <td>73.0</td> </tr> </tbody> </table>	出題のねらい	目標値	校内正答率	全国正答率	誤った化学反応式を書き直すことができる。	50.0	4.0	44.4	メダカの水槽の水をかえる必要がある理由を考えることができる。	65.0	28.7	60.9	水の電気分解で発生した水素と酸素が、単体で分子であることを理解できている。	50.0	11.9	39.7	結露が起こるしくみについて理解している。	55.0	23.8	51.5	メダカのえらのつくりと似ているヒトの器官を考えることができる。	70.0	45.5	73.0
出題のねらい	目標値	校内正答率	全国正答率																							
誤った化学反応式を書き直すことができる。	50.0	4.0	44.4																							
メダカの水槽の水をかえる必要がある理由を考えることができる。	65.0	28.7	60.9																							
水の電気分解で発生した水素と酸素が、単体で分子であることを理解できている。	50.0	11.9	39.7																							
結露が起こるしくみについて理解している。	55.0	23.8	51.5																							
メダカのえらのつくりと似ているヒトの器官を考えることができる。	70.0	45.5	73.0																							

<p>7年</p> <p>“Hi, Friends” より</p> <p>(1) 定着状況の概要 総合正答率が前年度全国平均より3ポイント以上上回り、良好な状況である。</p> <p>(2) 具体的な課題 単語の意味理解(数字9/19/90)・日常会話の理解(物の値段をたずねる場面)・質問に答える力に課題が見られる。</p> <p>(3) 課題の原因として考えられること 英単語を音として、理解しているが、文字と関連して覚えることが難しい。</p> <p>(4) 課題解決のための方策 7年生2学期以降の授業では、数字に多めに触れさせる。また協働作業を通して質問をする力・質問に答える力を高める。</p> <p>(5) 次年度の数値目標 全ての問題において、全国正答率を上回るようにする。</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>出題のねらい</th> <th>校内正答率</th> <th>市町村正答率</th> <th>前年度全国</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>単語の意味理解</td> <td>89.5</td> <td>87.9</td> <td>85.1</td> </tr> <tr> <td>基本的な英文の理解</td> <td>81.9</td> <td>82.0</td> <td>79.9</td> </tr> <tr> <td>質問に答える力</td> <td>81.6</td> <td>87.7</td> <td>84.1</td> </tr> <tr> <td>3つのヒント文から答える力</td> <td>87.7</td> <td>84.4</td> <td>83.5</td> </tr> </tbody> </table>	出題のねらい	校内正答率	市町村正答率	前年度全国	単語の意味理解	89.5	87.9	85.1	基本的な英文の理解	81.9	82.0	79.9	質問に答える力	81.6	87.7	84.1	3つのヒント文から答える力	87.7	84.4	83.5
出題のねらい	校内正答率	市町村正答率	前年度全国																		
単語の意味理解	89.5	87.9	85.1																		
基本的な英文の理解	81.9	82.0	79.9																		
質問に答える力	81.6	87.7	84.1																		
3つのヒント文から答える力	87.7	84.4	83.5																		
<p>8年</p> <p>(1) 定着状況の概要 全国正答率と比較してやや高めで、おおむね良好である。35問中31問において全国平均を上回っている。聞くこと1項目、読むこと3項目において課題が見られる。</p> <p>(2) 具体的な課題 英文の要点を聞き取ることや、対話の流れとグラフの読み取り、代名詞・英文の内容を把握することに課題が見られる。</p> <p>(3) 課題の原因として考えられること 初見の英文を聞いたり、読んだりして概要を把握する練習および英文とグラフを比較しながら読む練習が不足している。また、教科書の本文を読む際に、代名詞の意味を十分に理解して確認できていないことが考えられる。</p> <p>(4) 課題解決のための方策 2学期以降の授業において、教科書以外のまとまった長文の要点を読む練習および、代名詞の意味を確認する発問を行い、理解力を高める。また、英文とグラフを比較しながら読む練習をする。</p> <p>(5) 次年度の数値目標 全国正答率を下回ったすべての項目で、校内正答率が全国正答率を上回るようにする。</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>出題のねらい</th> <th>目標値</th> <th>校内正答率</th> <th>全国正答率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>英文の要点を聞き取ることができる。</td> <td>65.0</td> <td>68.0</td> <td>72.7</td> </tr> <tr> <td>対話の流れとグラフから、適切な人数を判断することができる。</td> <td>65.0</td> <td>62.3</td> <td>64.0</td> </tr> <tr> <td>代名詞 they の内容を把握することができる。</td> <td>70.0</td> <td>59.8</td> <td>60.4</td> </tr> <tr> <td>英文の内容を把握することができる。</td> <td>65.0</td> <td>63.9</td> <td>64.1</td> </tr> </tbody> </table>	出題のねらい	目標値	校内正答率	全国正答率	英文の要点を聞き取ることができる。	65.0	68.0	72.7	対話の流れとグラフから、適切な人数を判断することができる。	65.0	62.3	64.0	代名詞 they の内容を把握することができる。	70.0	59.8	60.4	英文の内容を把握することができる。	65.0	63.9	64.1
出題のねらい	目標値	校内正答率	全国正答率																		
英文の要点を聞き取ることができる。	65.0	68.0	72.7																		
対話の流れとグラフから、適切な人数を判断することができる。	65.0	62.3	64.0																		
代名詞 they の内容を把握することができる。	70.0	59.8	60.4																		
英文の内容を把握することができる。	65.0	63.9	64.1																		
<p>9年</p> <p>(1) 定着状況の概要 全国正答率とほぼ同程度か上回る結果であり、おおむね良好な状況である。</p> <p>(2) 具体的な課題 「書く」ことにおいて、場面に応じて書く英作文に課題が見られる。</p> <p>(3) 課題の原因として考えられること 7年生で短期間に多くの疑問詞を学習し、苦手意識が取れないまま、授業を受けていると考えられる。</p> <p>(4) 課題解決のための方策 2学期以降の授業において、疑問詞の意味と使い方を確認する発問を行い、理解力を高める。2学期の実力テストで全国平均を超えるように、また、最終的には入試問題が解けるようにする。</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>出題のねらい</th> <th>目標値</th> <th>校内正答率</th> <th>全国正答率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>単語の並べかえによる英作文</td> <td>53.8</td> <td>60.3</td> <td>52.6</td> </tr> <tr> <td>場面に応じて書く英作文</td> <td>30.0</td> <td>23.8</td> <td>19.6</td> </tr> <tr> <td>3文以上の英作文</td> <td>61.7</td> <td>66.5</td> <td>58.8</td> </tr> </tbody> </table>	出題のねらい	目標値	校内正答率	全国正答率	単語の並べかえによる英作文	53.8	60.3	52.6	場面に応じて書く英作文	30.0	23.8	19.6	3文以上の英作文	61.7	66.5	58.8				
出題のねらい	目標値	校内正答率	全国正答率																		
単語の並べかえによる英作文	53.8	60.3	52.6																		
場面に応じて書く英作文	30.0	23.8	19.6																		
3文以上の英作文	61.7	66.5	58.8																		